



群馬県、妙義神社本殿・拝殿・幣殿、側面図

の修理工事がはじまります。こうした修理工事ごとに、綿密な調査がおこなわれ、修理工事報告書とA0版の大きなケント紙に烏口や面相筆からすぐち めんそうふでを用いて墨入れした、保存図と呼ばれる図面が作成されます。修理技術者によって永年保存を目的に作成された保存図は、そのすべてが古建築の正確な記録ということだけにとどまらず、図面作品として美術的な側面さえも伴う、貴重な資料となっています。今回の特展では、ほとんど人目のふれることのない保存図を中心に、明治時代から現在に至るまでの修理工事の歴史をテーマとする展示を企画いたしました。

また、修理の際には、腐朽などによりやむを得ず部材が取り替えられることがあります。取り外された古材には、時代の特性を示すものや、銘文を残すものも含まれ、建物と同様の価値を有するものもあります。今回、昭和19年の焼失から現在まで大切に保存されてきた法輪寺三重塔の焼損部材を、古建築への理解を深める資料として、展示したいと考えております。

( 飛鳥資料館 西山和宏)

## 飛鳥資料館 秋期特別展示 『A0の記憶－文化財建造物保存図－』

今年度、飛鳥資料館の秋期特別展は、「<sup>エーゼロ</sup>A0の記憶－文化財建造物保存図－」と題して2002年10月8日から12月1日の会期で開催いたします。また、この展覧会に伴って文化遺産研究部建造物研究室長の清水真一による特別講演会「建造物保護の歩みと修理記録等の保存」を10月12日、午後2時から当館講堂にておこないます。

文化財建造物は、建立からの長い年月、所有者の尽力によって保護されてきました。明治30年に古社寺保存法が成立し、国の事業として文化財建造物